

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)

【公開番号】特開 2001-238950 (P2001-238950A)
 【公開日】平成 13 年 9 月 4 日 (2001.9.4)
 【出願番号】特願 2000-53236 (P2000-53236)
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 M 5/168
 F 1 6 K 15/14
 F 1 6 K 15/18
 G 0 5 D 7/01

【F I】

A 6 1 M	5/14	4 1 3
F 1 6 K	15/14	C
F 1 6 K	15/14	A
F 1 6 K	15/18	E
G 0 5 D	7/01	Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 7 月 27 日 (2004.7.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 7】

図 1 に示す注入速度調整装置は、上流側から下流側に開放圧が高い順に直列に配置されたダックビルタイプの複数の逆止弁 13、14、15 を備えた管状の流量制御部 1 と、この流量制御部 1 の管腔 121、111 にその上流側から挿着されて、逆止弁 13、14、15 を貫通可能な管状のロッド 21 を含んでなる逆止弁選択手段 2 からなり、ロッド 21 により貫通されない最も上流側の逆止弁 13、14 または 15 により注入速度が調整される。

流量制御部 1 は、先端部 11 と基端部 12 からなる管状体であって、先端部 11 の管腔 111 に上流側（基端側）から下流側（先端側）に開放圧が高い順に直列に配置された、ダックビルタイプの複数の逆止弁 13、14、15 を備えてなるもので、先端部 11 にはコネクター 3 に接続される接続チューブ 31 が取り付けられ、基端部 12 の管腔 121 は逆止弁選択手段 2 のロッド 21 の嵌合部分と相補的な形状に形成されている。基端部 12 には、その基端に、逆止弁選択手段 2 に設けられた後述の雌型螺合手段 22 と係合して、逆止弁選択手段 2 を流量制御部 1 に固定する雄型螺合手段 122 が設けられており、この雄型螺合手段 122 より先端側には、最も開放圧の高い逆止弁 13 に近接して、挿入されたロッド 21 と密接してロッド 21 の外壁と基端部 12 の管腔 121 の間を液密にシールする リング 16 が設けられている。